

好奇心いっぱいの授業

「事実を知る」って楽しいことだ。

社会

樫村 悠

社会は世界を考える勉強だ。 飢えのない世界を目指すSDGs。

現代社会はさまざまな問題を抱えています。貧困や紛争、人種差別や教育の問題など。このままでは安定した暮らしが困難になるという危機感を多くの国が持っていました。そこで、2015年、195の国々が集まって、誰一人取り残さずに安心して暮らせる社会の実現を目指して、持続可能な17の目標をつくりました。この頃、よくテレビや新聞などで見たり聞いたりする「SDGs」や「サステナブル」と呼ばれている運動です。



その目標を2030年までに達成しようとお互いに約束しました。ここで一番に取り上げられたのが、地球温暖化が原因とされている異常気象についてです。この話題について考えてみましょう。

中東と呼ばれる地域に、北は山岳地帯、南は砂漠地帯に挟まれた小さな国があります。その国は温暖で肥沃な土地に恵まれ、農耕や牧畜の盛んな穏やかな地域でした。ところが、異常気象がこの地方に流れる風を変え、何年もの間、雨を降らせませんでした。大地は干上がり、農作物の生産量は激減し、穀物の価格は異常に高騰し、貧困が農村地帯を襲いました。幼い命は栄養不足で次々と命を失い、生きる術を失った農民たちは職と食料を求めて都市へ大移動しました。都市の人口は一気に膨れ上がり治安は悪化、干ばつという泥沼から抜けられない政府に人々の不安と不満が向けられ内紛が勃発した、とされています。

さてここで視点を変えて、この問題を別の角度から眺めてみましょう。実は異常気象の増加が急速に進んだ、という説にはどうみても無理がある、という主張がもう一方にあるのです。実際過去30年間、異常気

象が増えたとか海面の上昇が加速した、南極の氷が融けた気配などない、科学的根拠がない、というのです。この問題には国連が主導する「気象変動対策」に対する各国の思惑、利害が複雑に絡み合っている事情があるのかも知れません。

平和で穏やかな国を悲しませたのは、本当に異常気象なのだろうか。



温暖化で海氷が減り、シロクマが絶滅するのは時間の問題だということは本当なのだろうか。温暖化で海面が上昇し、間もなくサンゴ礁の島々は海に消えてしまおうという話は信じていいのだろうか。このように視点を変えるとまた見方が違ってくるのです。社会科の学習では特にこの多様な見方のなかから何を取り出して真実に近づくか、が重要です。そこでみんなで考えてみよう。「社会」は歴史や経済、政治など、あらゆる分野から世界を考える勉強なのです。

地理	1年生 [中学1年生]	2年生 [中学2年生]	3年生 [中学3年生]
	■世界の諸地域の姿	■日本の地理と人々の生活	■公民 ■政治分野 ■経済分野・金融教育 ■国際分野
歴史	■先史時代～安土桃山時代	■江戸時代～戦後社会	
歴史分野	4年生 [高校1年生]	5年生 [高校2年生]	6年生 [高校3年生]
	■歴史総合 (全員) ■近代化 ■国際秩序と大衆化 ■グローバル化	■世界史探究 (文系選択科目) ■先史～近世 ■日本史探究 (文系選択科目) ■先史～近世	■世界史演習 (文系選択科目) ■近世以降 ■問題演習 ■日本史演習 (文系選択科目) ■近世以降 ■問題演習
地理分野	■地理総合 (全員) ■地図や地理情報システム ■国際理解と国際協力 ■持続可能な地域づくり	■地理探究 (文系選択科目) ■自然地理 ■人文地理 ■地誌	■地理演習 (文系選択科目) ■人文地理 ■地誌 ■問題演習
公民分野		■公共 (全員) ■公共的な空間 ■社会形成への参画 ■持続可能な社会作り	■政治経済演習 (文系選択科目) ■政治分野・経済分野 ■問題演習